

富山のこれからのまちづくり

# ディスカッション リレー 2021

Event Report BOOK







「まちづくり」は自分が暮らす街や地域を、もっと良くするために誰もができる活動です。富山や全国で活躍中の「まちづくり」実践者の方々による、テーマが異なる3つのディスカッションを通して、富山のこれからのまちづくりについて考えました。

この報告書では、ご出演いただいたパネリストやコーディネーターの言葉を、トークグラフィッカー®の山口翔太氏のグラフィックレコーディングとともに記録しました。



第1回 11.6(土) "ヒトとマチ"のこれから



泉英明氏  
(有)ハートビートプラン  
代表取締役



西村浩氏  
(株)ワークヴィジョンズ  
代表取締役



三浦詩乃氏  
国立大学法人  
東京大学 特任 助教



三浦良平氏  
富山市副市長



久保田善明氏  
国立大学法人  
富山大学  
都市デザイン学部  
教授

..... P3~P10

第2回 11.13(土) 利活用でもと楽しいまちに



齋田武亨氏  
(株)本瀬 齋田  
建築設計事務所  
代表 / 建築家



原井綾里氏  
(株)OZLinks  
代表取締役  
女将



林 隼介氏  
林ショップ  
店主/  
デザイナー/  
造形作家



田辺和寛氏  
(株)EVERT  
代表取締役/  
ほり座 支配人/DJ

..... P11~P14

第3回 11.20(土) 自らの動きを促すこれからのまち



中谷幸榮氏  
(株)TOYAMATO  
取締役



福原渉太氏  
Labore (株)  
代表取締役/  
NPO法人halea  
理事長  
(一社)UniverCityLab  
代表理事



田辺和寛氏  
(株)EVERT  
代表取締役/  
ほり座 支配人/DJ

..... P15~P20

第1回

## “ヒトとマチ”のこれから



左からパネリスト／泉英明氏, 西村博氏, 三浦詩乃氏, 三浦良平  
コーディネーター／久保田善明氏

日常づかいを大切にしながら、より魅力的で居心地がよい空間とするための官と民の関係性や空間の使われ方、それを通したヒトとマチの好ましい関わり方などについて、パネリストの泉氏と西村氏より他都市等での好事例を話題提供いただいたほか、富山駅周辺エリア等での今後のまちづくりに向けて、パネリストから官民共創に取り組む際に必要な視点やあるべき姿などについてディスカッションを行いました。

開催日 令和3年11月6日(土) 13:30~15:30  
会場 ハイビジョンシアター／富山市牛島町9-28

# 第1回 11.6(土) "ヒトとマチ"のこれから



<話題提供> (株)ハートビートプラン 泉 英明 氏



## POINT

- ◆ “まちの魅力”は物理的空間「作る」+人間の活動「使う」で生まれる
- ◆ 運営する人、向こう三軒ぐらいのメンバーで小さくイメージを共有
- ◆ プレイヤーがビジョンにも関わり、使う目線でハードにも関わっていく



### 【あそべるとよたプロジェクト】

豊田市の中心にある駅周辺の余っている空間を人が楽しめる空間にしていこうというプロジェクト。自分では何か表現したり、儲けたりとか、能動的な活動をやっていく人を一緒に作っていった。行政が余っている様々な空間を借りて、一般の市民に開放する実験を段階的に進めたら、テーマコミュニティとかスポーツとか、飲食したりお話ししたりという空間が生まれた。



## POINT

- ◆人口増から人口減という未体験ゾーンをいかに“楽しむ”かが鍵
- ◆小さく始めて、エリア全体の動機を生み出し、連鎖的に価値を高める
- ◆地域に土地を預けるという「土地信託」マインドで、魅力あるまちに



### 【わいわいコンテナ】

エリア内の青空駐車場に緑を配置し、エリアの豊かさ(価値)を高め、エリア内の事業収益を増加させ、周辺の駐車場の稼働率が上がることで、元駐車場のオーナーに再配分する仕組みを実践。入口として、2011年頃に、空き地を芝生にし、コンテナを置いて、魅力的なコンテンツや多世代交流に向けた実験を開始。現在では普通の日常に変化。



## POINT

- ◆「駅から街路空間までも」の実現には、物理的、視覚的接続や横断しやすさ、沿道1階レベルの活気が最低限必要
- ◆海外ではESG投資が進み、環境等の社会的インパクトへの対応が注目



### 【富山駅周辺エリアの可能性】

まちなかがあって、河川を埋め立てて環水公園ができたという2つの魅力のダブルがある。新しい住まい方や働き方など、新しいライフスタイルを提案していただけるのでは。さらに、実際に歩いてみると、立山の山並みが見えるポイントがあって、海外の大都会にもないような良い景観資源もある。そんなことを発掘できる機会が、富山駅の南北接続だったのでは。

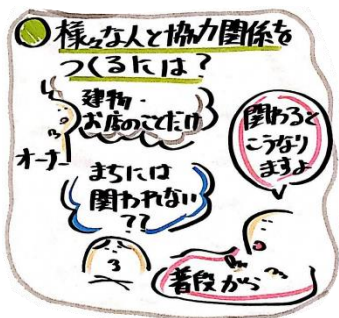


3者共通していることは、公民の低未利用になっている空間をいかに利活用していくかということ。都市の魅力高めエリアの価値を高め、好循環を生み出し、都市の価値を高め、これが今から非常に大事になってくる。

# パネルディスカッション

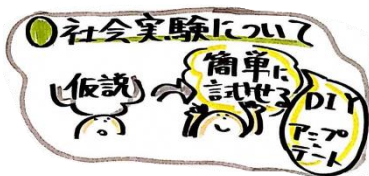


Q まちづくりを進めるには、行政はもちろん、地域の商業者や事業者、住民等との協力関係が非常に重要ですが、その関係を構築する際にご苦労された点や、さらにはどのように乗り越えてこられましたか？



一般の人は、まちに関われることに対して諦めている。だから、社会実験みたいなもので体験してもらってできる可能性を感じてもらいたいとか、関わることで何かプラスになるかもみたいな話を、お店が儲かったとか、ちょっとずつずついろいろな方法を使ってわかってもらうことが必要。このためには行政のバックアップなどが重要。地道な作業だけ大切。(泉さん)

Q 賑わいづくりのための社会実験で設置したモノあるいは仕組み等について、継続して行っていくのでしょうか？また、その後の管理や運営は社会実験の主催者が担っているのか、新たな体制で担っているのかお伺いできますか？



社会実験は仮説検証であり、いくつかを試すことが重要。最初は安く簡単に早く変わっていくものを使う。既存のもの、DIYでつくってみる等。また人材面では、社会実験をするその場所の人材を使ったら良い。デザイナーの方を入れることも大事。(三浦 詩乃さん)

Q 魅力的な公共空間はハードだけではなく、そこでの人の営み、アクティビティがあって完成されるという考え方もあります。そこで自らが積極的に公共空間でイベントを計画したり、まちづくりに関わりたいといういわゆる「プレイヤー」を育てることも必要と考えますがいかがでしょうか？



育てるというより見つけられていないだけ。このまちにもいろいろな動機でいろいろな場所に散らばっている。思いが共通している同士で合意形成をとっていくことが大事。ハードを作るプロセスを先にやるのは損。作るプロセスに当事者として関わった人は絶対に離れない。思いをもっている市民につくるプロセスにダイレクトに関わってもらえば、そのハードを大事にする人たちは増える。(西村さん)





Q 富山のこれからの官民連携について、どういったことがポイントになりそうかというのを、外からの視点も踏まえてお聞かせいただけますか？



富山は団子と串のまちづくりなどまちの骨格はすごくできているので、あとは**団子のあんこの部分をこれからみんなで小さく楽しんでいく**ことができる。  
小さなことでいいのでアイデアを集めて、**みんなでちょっとこうしてみようというプラットフォーム**を作って、そういう意見がある人を応援できるような体制を官民でつくっていければ、団子のあんこが非常に楽しいものになるのではないかと(泉さん)

富山ではもうすでにいろいろな新しいことをやってきているので、その組み合わせでまた新たに新しいことが起こると思う。(三浦 詩乃さん)



未来を確定はしない方がいい。何かやりながら**確かめるプロセスを共通事項としてビジョンの中に入れていく**ことがいいのではないかと。人口が増えても幸せだけど、増えなくても幸せな状態もある。プロセスが常に幸せな状態を作り続ける仕組みを用意できれば、チャレンジがしやすい。

これからつくるビジョンは、**まちのためにこういうことをやりますと宣言した人たちのことを政策にのせ、その人が確実に責任をもって実行することを行政がどうフォローする**かが大事。実践会議と推進会議など、目的の違う人を違う会議体できちんと議論してもらおうという状態をつくるのが大事。(西村さん)



ビジョンというのは**1つではなく、新しいプロジェクトがあればどんどん更新されて変更されていく**もの。  
色々なものが持ち込まれて、その人たちがまた**新しいプロジェクトをつくり出していき、そのプロジェクトができる制度を行政が練っていく**という形がいいのではないかと。(泉さん)

Q これからウォーカブルな富山市にしていくためにどういうふうなことを考えていけばいいか、官民連携も絡めて、お聞かせいただけますか？

ウォーカブルは歩きたくなるということ。目的地やコンテンツが大切。あとは偶然の出会いも大切であり、**ここにいたら誰かに出会えるとか、外の人と地元の人が出会えるとかそんな場所**がいくつかあって、**結ぶ空間として歩きやすい空間**がある。(泉さん)

一回自動車に乗ると便利なので**転換がなかなか、難しい**ですが、**歩くことが楽しいんだよってことを見せる**という手もある。富山市で言うと、市民の方をいかに巻き込んでいくかが、長い目で必要。高齢者に関しては、既にLRTですごくやられてるところが多いので、**次の世代に向けて**ということがテーマになる。(三浦 詩乃さん)

ウォーカブルはこれからの街にとって大事なこと。**ポイントはすべてがウォーカブルではなくて良いこと**で、車で近くまで来れるけど、ちょっと行けば**200mくらい安全**みたいな。そういう場所をどのように作りこんでいけるかを考えるのは民でできること。

私たちは人口増加から人口減少という多分に度と訪れない時代の変わり目の中で生きていて、この時代を**楽しまなくてどうするんだと僕は思う**。いろいろなことを**変えていいと言われている時代に、人任せにして楽しまないことが損失**なのではないかと思うので、地域の皆さんには**楽しみながら頑張**ってほしいと思う。(西村さん)

島原万丈氏の官能都市というレポートの中の都市の評価軸において、富山市は自然が感じられるかなどの評価軸は10位台と結構上位だが、歩いて楽しいか・まちを感じられるか・ロマンスがあるかなどの評価軸では**ベスト50位にも入らない**。人は**五感を感じて都市を知覚**しているので、それらが欠如すると魅力的な都市にはならない。これを高めていくことが富山市に**重要**だと思う(三浦副市長)

第2回

## 利・活用で、もっと楽しいまちに



左からパネリスト／齋田武享氏, 原井紗友里氏, 林悠介氏  
コーディネーター／田辺和寛氏

富山で営む人、楽しむ人、活かす人が登壇し、様々な活動を通して感じる富山の魅力や課題を語りました。

また近年、人口や世帯の減少、事業の引継ぎ手の不足等によりまちの課題として顕在化しつつある空き家や空き地、空き店舗の増加について、各自の問題意識や取組事例、解決のアイデアなどを意見交換しながら、利・活用の可能性、実現の方法などについてディスカッションを行いました。

開催日 令和3年11月13日(土) 10:30~12:00

会場 四〇〇〇〇〇(しじま)／富山市八人町1-13

# 第2回 11.13(土) 利・活用で、もっと楽しいまちに<sup>1</sup>

原井さん  
観光  
ハ尾町  
パピル  
ユザリ  
テナ

2010年~  
林さん  
林ショップ  
共有スペース  
民芸品  
仲間と運営



齋田さん  
建築家  
おの空間づくり  
設計者

田辺さん  
只味西館)  
(おつくり)  
商業施設  
プロデュース

林さんがお店を  
つくれた経緯

元民芸店  
祖母の  
代から  
交流

古本屋  
エヒ店  
まちの  
魅力  
長屋の並み

発展する  
ポイント  
発信できる人  
たまたま  
お店を開けた人

西別院の長屋の一角にお店を構える林さん。  
林さんが開業後、様々なご縁から次々に輪が広がっていき、  
長屋の並びにはお店が増え、  
文化の香りがする魅力ある商店街となっていく。

原井さんに  
なぜ八尾で?

八尾  
くしの  
豊かさ  
人との  
距離  
日常を  
見たい

お近づきが  
大家族

暮らしの豊かさを八尾町に感じ、その魅力を通年で作れないかと考え拠点としている原井さん。人と人の距離感や日常生活の一つ一つを大切にしていける八尾町を楽しみながら生活している。

齋田さんなぜ富山に?

場所に  
根付いた  
活動

富山の  
魅力

またな  
事務所  
アワード  
中央通り  
人との  
距離

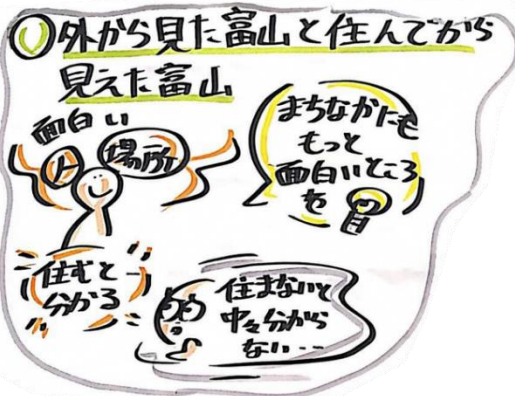
異なる場所  
で建築を  
建てるか?

全国で仕事をしている中で場所に根付いた活動をしたと考え、  
海・山・まち等様々な魅力がある「富山」という土地で  
活動をしたいと感じた齋田さん。  
たまたまあった御縁で、現在中央通りで事務所を構えており、  
東京と富山の2拠点居住をしている。



地域に必要なのは人であり、人が住むために必要な雇用を創出することが重要であると考えている。(原井さん)

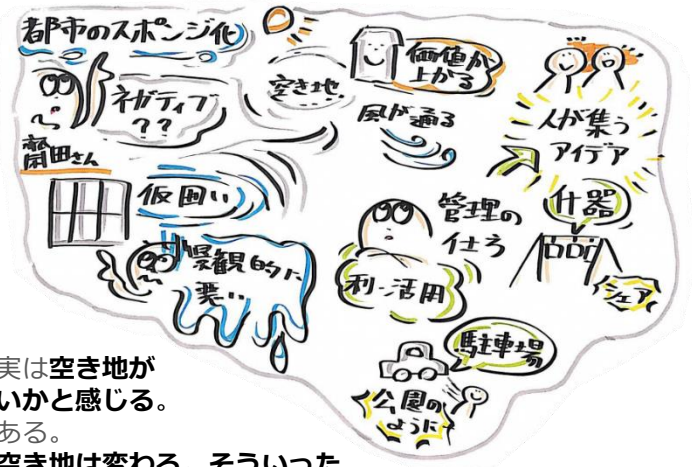
お店を通じて価値観の共有ができる人達が大事で、お店があり、出会いがある。そして良いものを周りの人たちと一緒に発信できる。(林さん)



外部（東京等）から通っていた時と、富山に住んでからでは感じる魅力が変わってきており、住んでみて初めて気が付く点が多い。食べ物のおいしい店や楽しい場所の発見を通じて、まちなかをもっと面白いところになりたいと考えようになった。(斎田さん)



魅力的な建物がなくなり、気が付いたらコインパーキングになっている。まちなかには公園や樹木が少ないから、少しでも緑があるとまちなかがよくなると思う。紅葉や木漏れ日によるまちの表情で人が自然と集まってくる。駐車場の一部に緑を植える条例なども一つの手ではないだろうか。(林さん)



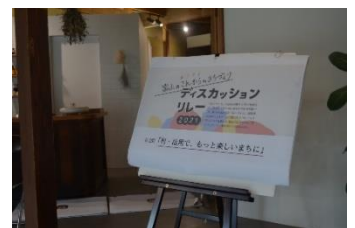
空き家から空き地への変換が進んでいく中で、実は**空き地ができることが必ずしも悪い事ではないのではないかと感じる**。隣が空くことで通風採光の確保ができることもある。空き地や空きスペースに、**什器をおくだけでも空き地は変わる**。そういったものをまちの皆で**シェア**していくことで、もっとまち中を上手く使うことができるのではないかと。(斎田さん)



駐車場もデザインの仕方によっては、魅力的で活用できるスペースになるのだと感じている。空き家をアップサイクルする時には、見極めが大事であり、ハイリスクにならないようにコストを考えなければならない。空き家空き地を活用する時のハードへの投資はリスクを伴うので、**地域に根付くプレイヤーと行政が上手くタッグを組んで活用できる仕組みが必要**になってくるのではないかと。(原井さん)



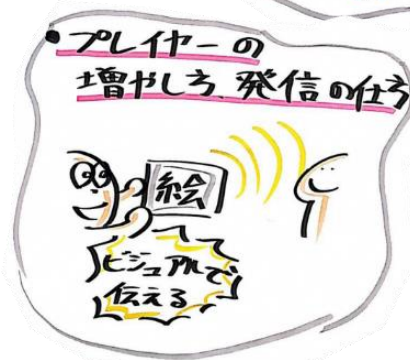
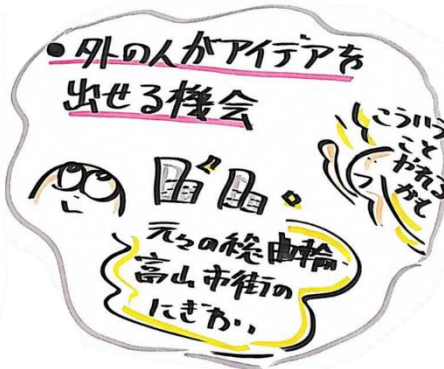
何かをやりたいと思う人たちは大勢いるが、様々な制約等があり難しい面も多い。そこは今後の課題になる。富山には個性のある人たちが多くいる。民間プレイヤーと行政でタッグを組んで、今後の可能性を見出したい。(田辺さん) 行政とのタッグも必要になってくるが、**民間同士でのシェアも大事**だと思う。(斎田さん)



# 〇 質疑応答



Q.発展していく部分と衰退していく部分について。 A.残していく必要がある地域は、雇用問題等の様々な問題を解決し人を繋ぎとめていかなければいけない。  
 Q.中古物件を選ぶ基準や判断は？ A.賃貸という考えも必要。買うとなるときは御縁もあるが、何故その物件が必要なのかをしっかりと伝えていくことも大事。  
 Q.やりたい事を個人でやっていくことの難しさがある。 A.情報収集も大事だが、情報の発信が大事。自分の想いを発信することで繋がりができることもある。  
 Q.プロモーション力を高めるには？ A.思いを説明するための絵を持っておくことが大事。



トクワド  
do 研大

都会から富山へ訪れると、富山のスポンジ化の現状に驚きを隠せなかった。アーケード街は生まれた時からシャッター街だったから、そういうものだと思っていたが、都会は毎日がお祭りのよう。ネガティブな気持ちだったが、今日話を聞いて、空き地、空き家が面白い、チャンスがあると感じた。周囲の大学生はまちについて、いろいろなことを考えている。そういった人達にもっと情報を伝えることでアイデアが出てくるし、そういった機会が頂けたらと思う。

第3回

## 自ら動かし育むこれからのまち



左からパネリスト／中谷幸葉氏, 福原渉太氏  
パネリスト兼コーディネーター／田辺和寛氏

富山での起業等を通してまちに関わり自ら動かす実践者が登壇し、それぞれが意識するまちの今や未来、必要な人材や仕組み、官民共創の可能性などを議論しつつ、私たちが望むまちの未来をどのように実現していくか、どう思考し、どんな行動で実現するのか、そして1人1人に何ができるのか、自ら考え動かし育むこれからの富山のまちづくりについてディスカッションしました。

開催日 令和3年11月20日(土) 13:30~15:00  
会場 SOGAWA BASE／富山市総曲輪3-4



# 第3回 11.20(土) 自動が育むこれからのまち



TOYAMATO  
まちづくり  
会社  
中谷さん (富山と何かを繋ぐ)

SOGAWA BASE プロテューズ  
田辺さん  
まちX人  
映画館 運営  
文化

福原さん 学童保育  
Labore (F2) 運営  
HATCH 運営  
大学生と起業

## Q どうして仕事で富山に?

中谷さん 2年前、移住。  
自分の夢を実現したい  
学校をつくりたい  
まちなみ  
社会に出るから教育

福原さん  
青森から富山に移住し、富山での教員生活を経て働く楽しみを見出した。  
学童保育  
自分のやりたいこと  
子供たちが正解を見つけられるきっかけを教えている。



TOYAMATOを運営しながら、富山と何かをつなげる活動を行っている。夢を実現させたいという思いを持っているとき、2年前に縁のあった富山に移住した。教育でまちを変えたいという思いがあり、まちと一体化しコミュニティの一環となるような学校を作りたいという思いがある(中谷さん)

大学がきっかけで青森から富山に移住し、富山での教員生活を経て働く楽しみを見出した。学習指導要領に縛られない学童保育に魅力を感じ、学童保育等の運営を通じて正解のない時代に子供たちが正解を見つけられるきっかけを教えている。(福原さん)



## ○ これから、富山で何を 生み出すのか？



自分自身のキツキとワクワクして活動するということ伝えていきたい。また、自由な発想を持っている学生の背中を押していきたい。(福原さん)

富山は学生の意見を肯定する大人が少ない。思考の可能性を高めるため肯定することも大事。(田辺さん)



今後の富山のためには、若い人の成功体験が必要なのではないかと思っている。(中谷さん)



## ○ 富山に必要な考え方-思考



やりたい気持ちがあること、小さな成功体験の積み重ねが大事。(中谷さん)

本人のやってみようという思考と、周りの「やってみられ」という肯定。自分の想いを外に出すことが苦手な人が多い。思考を外に出していいという考えが大事。(福原さん)



## ○ どういう人材・仕組み が必要



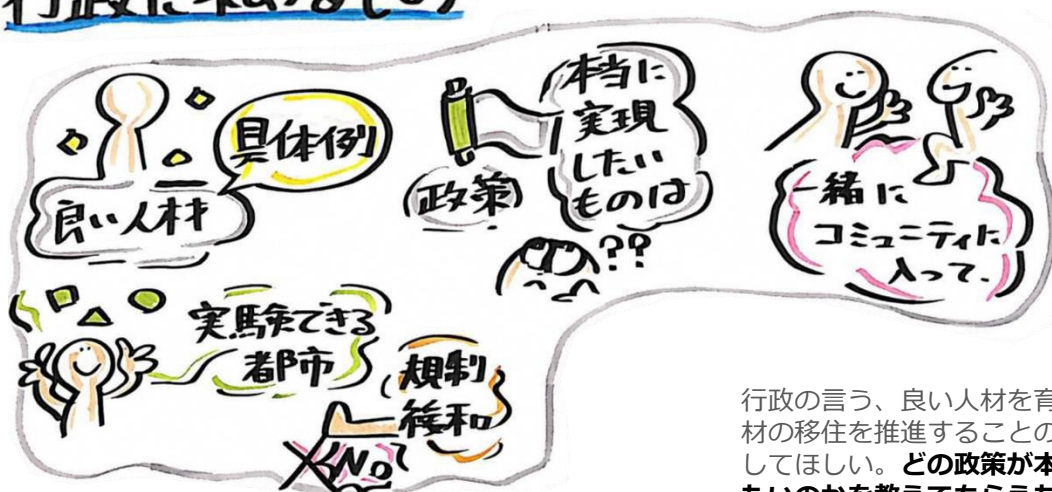
自由な発想が過去の経験で阻害されている。クリエイティブな発想はいつまでも持ち続ける、育んであげる環境づくりが重要だと思う。学生や若者に自走させてあげる仕組みはとても大切。(中谷さん)

行政を頼りすぎるのは良くない。自らのやることをやる過程で行政の支えがあるといい関係だと思う。こちらから行政を巻き込んでいく。(中谷さん)

ゼロベース段階から行政と民間で話し合える環境づくりが必要(田辺さん)

一生懸命で優秀な人材が行政にもいる。立場が大きく異なるから、お互いに対話等を通して歩み寄っていくことが大切だと思っている。(福原さん)

## ○ 行政に求めるもの



行政の言う、良い人材を育てる、良い人材の移住を推進することの具体例を示してほしい。どの政策が本当に実現したいのかを教えてもらえたら、その政策のイメージに近いことができるかもしれないし、もっと連携できるかもしれない。(田辺さん)

もっといろいろなコミュニティに参加してほしいし、一緒に盛り上がってまちづくりをしたいし、一緒に当事者となって参加してほしい。(中谷さん)

様々なことを実験できる都市にするために、もう少し規制緩和をしてほしい(福原さん)



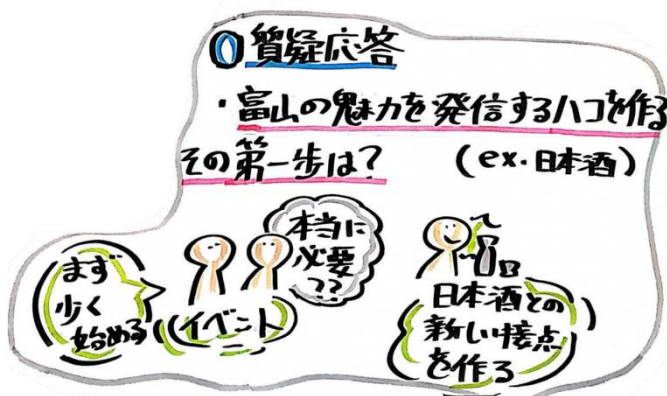


自分の声が届く半径20m範囲をまず動かしていくことが必要。(市職員)

市役所、学生、民間企業等が自由に発言できるラジオ等のメディアを創設したら、各々の情報が広い範囲に伝わりやすくなるのではないかと。(田辺さん)

身近なことを気付き自分の糧にし、話し合えるような状況を促していく必要性があると思う。身近なことがなぜそうであるかの理由を考えてほしい。(田辺さん)

みんなの共通な屋号をもって考えていくことが大事だと思う。(中谷さん)  
外に出ることで今ある良さに気が付き、大切にしてほしい。自分自身が広告塔になることもあるんだという気持ちを持ってほしい。(福原さん)

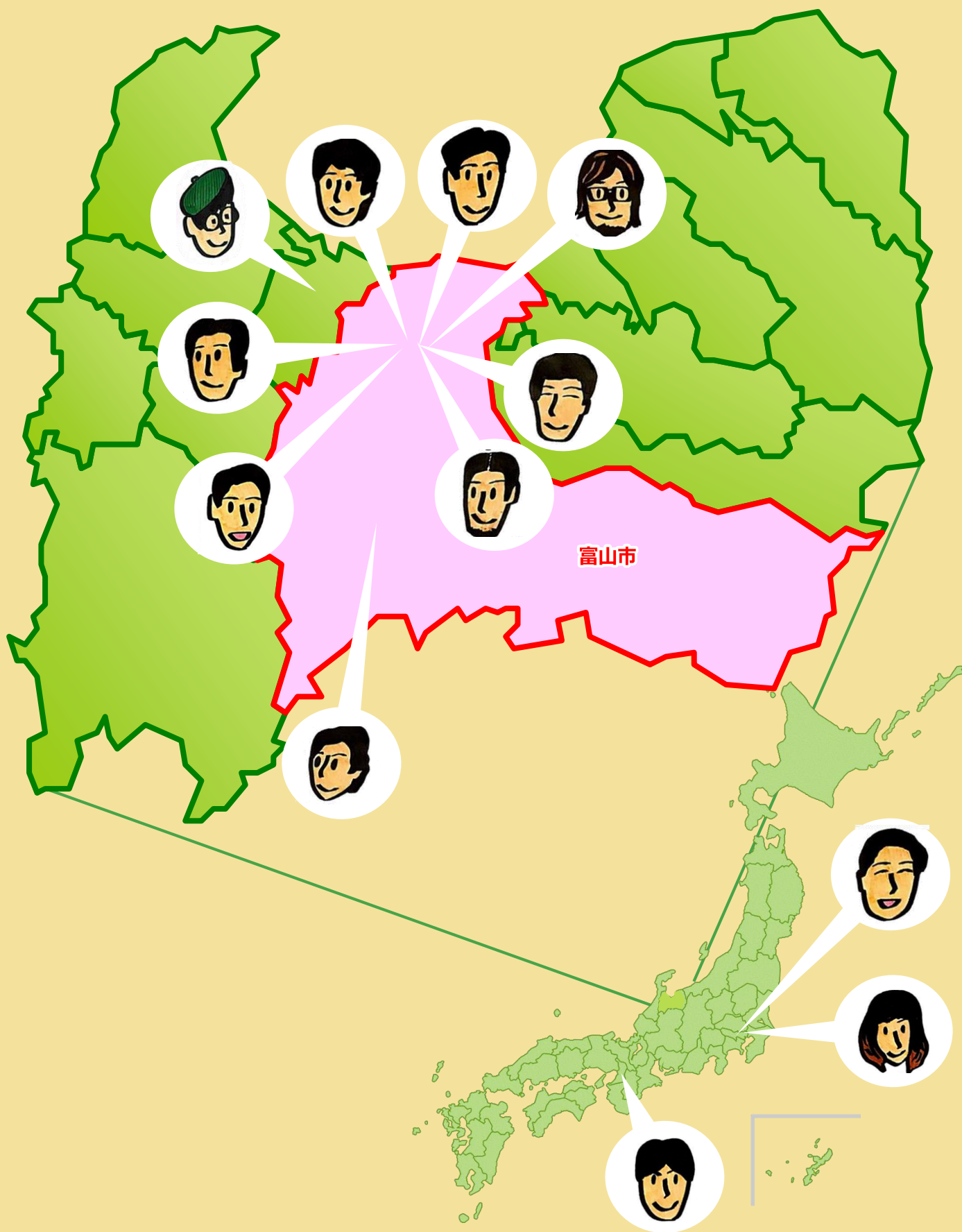


A. 少なくとも始めて、需要がありそうなら大きくしていく。まずイベントからでもいいので一度小さくやってみることが大事。

トークゲスト  
山口翔太

まちづくりと一概に言っても、ハコの話や人の話、まち全体の話等あるが、こういった多角的に考えることができるイベントを通して、自分には何ができると考えたり、人をどう育てるか考えるだけでも、まちと繋がっていけるのかなと感じた。  
何かをやろうとするときは、やってみたら？面白そう！と言ってくれる人が周囲にいただけでチャレンジすることができるし、カタチにできると思う。(山口さん)

# 出演者MAP



# 富山のこれからのまちづくりディスカッションリレー2021 出演者一覧



**泉 英明 氏【第1回】**  
(有)ハートビートプラン代表取締役  
<https://hbplan.jp>



**西村 浩 氏【第1回】**  
(株)ワークビジョンズ代表取締役  
<https://www.workvisions.co.jp>



**三浦 詩乃 氏【第1回】**  
国立大学法人東京大学特任助教  
<https://www.k.u-Tokyo.ac.jp>



**三浦 良平【第1回】**  
富山市副市長  
<https://www.city.toyama.toyama.jp>



**久保田 善明 氏【第1回】**  
国立大学法人富山大学都市デザイン学部教授  
<https://dm.sus.u-toyama.ac.jp>



**齋田 武亨 氏【第2回】**  
(株)本瀬齋田建築設計事務所代表  
／建築家  
<http://samoarchi>



**原井 紗友里 氏【第2回】**  
(株)OZ Links代表取締役女将  
<http://8-base.chu.jp/8/>



**林 悠介 氏【第2回】**  
林ショップ店主／デザイナー  
／造形作家



**田辺 和寛 氏【第2回・第3回】**  
(株)EVERT代表取締役／ほとり座支配人  
／DJ <https://hotori.jp>



**中谷 幸葉 氏【第3回】**  
(株)TOYAMATO取締役  
<https://toyamoto.jp>



**福原 渉太 氏【第3回】**  
Labore (株)代表取締役／NPO法人halea  
理事長／(一社)UniverCityLab代表理事  
<https://www.labore.jp>



**山口 翔太 氏【第1回、第2回、第3回】**  
トークグラフィッカー®  
<https://talk-graphic.jimdofree.com>

【概要】

富山のこ木からのまちづくり

# ディスカッション ソレー 2021

主催 富山市（活力都市創造部活力都市推進課、都市計画課）

後援 国立大学法人富山大学都市デザイン学部、(株)EVERT、  
(株)OZ Links、(株)富山市民プラザ、(株)TOYAMATO、  
林ショップ、(株)本瀬齋田建築設計事務所、Labore(株)

出演 第1回（令和3年11月6日@ハイビジョンシアター）  
パネリスト 泉 英明氏、西村 浩氏、三浦 詩乃氏  
三浦 良平  
コーディネーター 久保田 善明氏

第2回（令和3年11月13日@四〇〇〇〇〇〇）  
パネリスト 齋田 武亨氏、原井 紗友里氏、林 悠介氏  
コーディネーター 田辺 和寛氏

第3回（令和3年11月20日@SOGAWABASE）  
パネリスト 中谷 幸葉氏、福原 渉太氏  
パネリスト兼コーディネーター 田辺 和寛氏

グラフィックレコーディング  
トークグラフィッカー® 山口 翔太氏

SPECIAL THANKS  
dim.、オニヅカセッケイブ、山下 裕子氏、蛭谷 耕太郎氏



<本企画に関するお問い合わせ>

富山市活力都市創造部都市計画課都市計画係  
電話 076-443-2105  
メール toshikeikaku@city.toyama.lg.jp



イベントHP